

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第60号 〔2014年2月号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第60号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## <目次>

会報登録に hotmail アドレスをご利用の皆様へ

ビルマ子供医療基金（BCMF：Burma Children Medical Fund）についてのご報告

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



## 会報登録に hotmail アドレスをご利用の皆様へ

平素より当会の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

最近、hotmail のアドレスに会報が届かないというトラブルが発生いたしました。  
詳細を調べましたところ、hotmail は特にセキュリティ対策が厳しく、受信許可設定が為されていないと拒否されてしまう場合があることがわかりました。

会報の配信状況としましては、昨年8・9月号は合併号といたしましたが、その後は毎月配信しております。万が一、毎月届いていないという状況がございましたら、受信拒否されている可能性があります。

お手数ですが下記の要領にて、受信許可設定をしていただきますよう、お願いいたします。

<hotmail 受信許可の仕方>

- ①画面右上のアカウント名左の設定ボタンをクリック（歯車の形をしたボタンです。カーソルを持っていくと「オプション」と表示されます）
- ②「メールの詳細設定」をクリック
- ③「差出人セーフリストと受信拒否リスト」をクリック
- ④「受信許可メールリングリスト」に「ml@japanmaetao.org」を追加。

ご不明な点はお問い合わせください。

会報が届かず、これまで毎月お読みいただけなかった皆様には、ご案内が遅くなりまして大変申し訳ございませんでした。深くお詫びいたします。過去のメールマガジンは当会ホームページよりお読みいただけますので、ぜひご覧ください。

今後も、会報を通じてメータオ・クリニックおよび当会の活動の様子を皆様へお届けしてまいります。

国内の民主化の影響を受け、少しずつ変化を見せるタイ-ミャンマー/ビルマ国境の情勢ですが、当会はその実情に合わせて、ミャンマー/ビルマ難民が安心して健やかに暮らせる日が訪れるまで、彼らに寄り添いながら活動を継続していきます。

今後も、あたたかく私たちの活動を見守り、応援していただければ幸いです。引き続きご支援くださいますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

## ビルマ子供医療基金（BCMF : Burma Children Medical Fund）について のご報告

ビルマ子供医療基金（以下BCMF）からの呼びかけを受け、当会よりご協力をお願いをしておりました、患者・家族滞在施設開設のための寄付を募るファンドレイジング・キャンペーンは1月末をもちまして終了いたしました。（キャンペーンの詳細はJAMホームページ内 <http://japanmaetao.org/> 「ビルマ子供医療基金について」をご覧ください。）

JAMの会員の皆様をはじめ、多くの方々よりご協力をいただき、総額275,000円の支援金が集まりました。皆様からお預かりしました支援金は、ゆうちょ銀行の海外送金手数料を除い



た金額の全てを BCMF へ寄付いたしましたことをご報告します。

皆様の温かいご支援、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

以下は BCMF より届きました報告書の要約です。

1月28日をもちましてオンライン募金額は目標を達成し、総額5,285ドル(約54万円)の支援金が集まりましたことをご報告します。加えて、日本とオーストラリアの皆様より13,000ドル(約133万円、JAMを経由した支援金を含む)の多大なるご支援をいただきまして、心より御礼申し上げます。

施設は12月に正式にオープンし、チェンマイで治療する患者様が利用しています。ご寄付くださいました皆様、またキャンペーンを広めてくださいました皆様に深く感謝いたします。

私たちの新しい施設は、患者様とご家族、BCMF スタッフの協働により30人余りの患者様とご家族が滞在できる素晴らしい施設に改修されました。居室にはお母さんと子供が過ごせる部屋も設けてあります。また菜園も作り、食材供給の目的だけではなく、作業療法や精神的ケアの一環としても活用できるようになります。皆様のご支援のおかげで安心して療養できる環境が整いましたことに、深く感謝いたします。



【ダイニングの基礎を掘るスタッフ】



【完成したダイニングでピース☆】



【小児の患者さん。BCMFの支援を受ける患者の5割以上を子供が占めている】



【菜園で働く患者さんのお母さんたち】

尚、BCMFでは医療支援のための寄付を引き続き受け付けております。  
不安な治療を見知らぬ土地で受けざるを得ない患者さんやご家族のために、今後ともご支援の程よろしく願いいたします。詳しくは下記をご覧ください。

BCMF ホームページ：<http://burmachildren.com/>

Facebook：<https://www.facebook.com/burmachildren>

## メソトマンスリー



【メソト=田畑 彩生】

## 今月のスタッフ

デザインウーさん、37歳。

ミャンマー（ビルマ）エヤワディー州ジョウンピョー村出身の彼は、スゴーカレン語とビルマ語を話します。敬虔なクリスチャンの彼は、タイのメソトにある移民学校 CDC 校で音楽の楽しさを子どもたちに伝えています。



【ギターを弾いている所でハイポーズ】

生まれ故郷の村の人々もみな音楽が大好き。

そんな芸術を愛する村と音楽に秀でた家族に生まれ育ったデザインウー先生はカレン族の伝統音楽を披露したり、若者へ伝承したり、教会などで得意のギターを演奏して生計を立てていました。



出身の村では、教育や保健医療が整っておらず、子どもたちを中等教育以上へ進ませる為の学費工面にも頭を悩ませていたそうです。3人目の子どもが村で産まれたその年、彼はタイへ避難民として移る事を決意します。

「小さな子どもだけで国境を越えさせる事は出来ず、子どもの未来を考えて一緒に国境を越えました。」

メソトに移り住んで6年。

今では4人の子どもに囲まれた大所帯となりました。彼の子どもたちは、高等レベルの教育まで備える移民学校 CDC 校で教育を受けています。しかし、メソトにある移民学校を卒業してもタイでの正式な高等教育卒業資格は現在認められていません。それを知っても、ミャンマー(ビルマ)国内の教育事情とは今でも比べ物にはならない程違うと話して下さいました。



「自分は学校へ通う事は叶わなかった。4人の子どもには、教育を受けた立派な大人になって欲しい。そして、子どもたちの願う夢がかなえられることを思っています。」

日焼けした顔にくしゃくしゃしわを寄せてはにかみ、だんだん重くなるんだよと一番小さな3歳の息子さんを抱きかかえました。

このデザインウー先生、JAMの音楽クラブ事業以前は CDC 校の用務員・事務員・建設修理係として勤務していました。現在は、その業務の傍ら、金曜日の午後と放課後の30分、CDC校の生徒約40人と歌や楽器の演奏などのクラブ活動に力を入れています。



【音楽クラブの舞台演奏写真】

JAMが音楽クラブ事業を始めた当初、彼はコード名と数記譜(数字のみで記載する記譜法)しか音の表記方法を知りませんでした。学生と一緒に基礎から学んだ五線譜、今ではパソコンで譜面を書き、昔、村で伝承していた民族音楽を五線譜へ起こす作業を進めています。「いつか、生徒たちと一緒に演奏をしたい。」

夢は大きく膨らみます。

「移民学校は、支援で運営されているので、2015年以降のミャンマー(ビルマ)の選挙結果によっても移民学校の状況は大きく変わるでしょう。しかし、この音楽クラブはいつの日も必要です。音楽クラブは、言語も背景も民族も様々に異なる CDC 校の子どもたちを支え、



忍耐力と集中力を与えてくれます。

私の願いは、音楽クラブを少しずつ充実させ大きくしていくこと。そして、他民族の背景や学習環境の中で育った彼らには、音楽を通して互いの存在を尊重する事の大切さを知って欲しいし、子どもたちの柔軟性を育てていきたいと考えています。」

デザインウー先生のこの願いは、音楽クラブ活動に参加する生徒にも語られます。音楽を愛し、子どもたちの未来を思う彼の言葉はいつも深い愛情に満ちていました。

この音楽クラブ活動への寄付者、楽器修理などの活動費、JAM募集中です！



【音楽クラブ授業の様子】

## 国内から

【東京＝福田】

はじめまして。昨年の5月からJAMの正会員として会計のお手伝いをしている福田です。昨年のスタディツアーでは参加者の皆さんに同行させて頂きました。楽しかったです。

JAMの会員の方は海外での活動に関心をもたれている方が多いと思います。海外に行くとき、日本の常識とは違う常識に気付くことが良くありますが、私も初めて海外に旅行したときに景色や食べ物からではなく、ある標識を見て初めて海外を実感した思い出でした。

海岸に立てられたその標識は「Swim at Your Own Risk」、「泳ぐなら、自分のリスクで泳げ」。当時の私にはなかった発想でした。「禁止」でも「注意」でもなく、「泳ぐことへの自由は認める代わりに、リスクは自分で負うこと」。それまでアメリカという国の生い立ちから個人の自由を尊重する国柄とは聞いていましたが、自由の裏側には個人の責任もセットになっていることを、そんな標識から知らされました。国が違うということはこういう事なのかと、ずいぶん前のことながら、今でもはっきりと記憶に残っています。



もうひとつ別のアメリカの標識について。

身障者用の駐車スペースの標識は今ではほとんどが車椅子のデザインですが、昔は「Handicapped」と表示されていました。「身障者」でなく「ハンディーを負った人」という言い方に、当時は成程と思いましたが、その後「Challenged」という言い方が使われるようになったと聞きました。更に前向きな言い方です。

ちなみになぜチャレンジャーでなくチャレンジドという受身なのかというと、神から挑戦する機会を与えられた人だから、という話



を聞いたことがあります。この辺りは宗教が背景にあるので、なかなかわかりづらいですが、それにしても障害を持った人達を挑戦者というくりにポンと入れるという発想には、考えさせられるものがあります。

クリニックを作ったシンシア医師と一緒に活動している人達は、社会的、経済的な弱者のための医療や保健インフラへの挑戦者であることはもちろんですが、同時にそこを訪れる患者の人達も、難民というくりになく、それぞれが置かれている困難な状況に挑戦している人達と捉えてみると、私の中ではイメージが少し変わります。難民という立場は私の日常生活からはずいぶんかけ離れたものですが、困難に挑戦している人達というふうに見れば、身近な人達に思えます。

これからミャンマーは経済的に発展していくようです。物質的に豊かになっていくその過程で、日本人にはないやさしさを持っているミャンマーの人達が、そのやさしさをいつまでも失わず、精神的にも豊かになっていくことを少しでも応援できたらと思っています・・・ではなくて、それが実現することに私自身が挑戦しないといけないですね。



## 編集後記

今月は、2週続けて東京に大雪が降りました。  
朝、自宅マンションの部屋の玄関をあけて廊下に出ようとしたら・・・びっくり。



一面、まっしろ。



こんなに降るなんて。。。ほんと、びっくりです・・・。

### 次号の予定

次号は、3月中～下旬ごろ配信の予定です。  
ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。  
Facebookにもぜひ「いいね！」をよろしくお願いします。



**NPO法人メータオ・クリニック支援の会      Japan Association for Mae Tao  
Clinic (JAM)**

日本事務局宛て E メール： [support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)

ホームページアドレス      : [www.japanmaetao.org](http://www.japanmaetao.org)

フェイスブック                      : Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

